

会 議 録

I. 附属機関等の会議の名称

令和元年度 第3回 松川町地域公共交通対策協議会

II. 開催日時

令和元年12月25日（水） 午前10時00分～10時40分

III. 開催場所

松川町役場 2階 協議会室

IV. 出席者氏名

《委員》

宮下智博会長 水野一昭副会長 藤澤洋二委員（代理/堀内郁勇）

片桐実委員（代理/片桐博） 中川初俊委員 大澤今男委員 林貞喜委員 原節子委員

芦澤千恵子委員 土屋智則委員（代理/長岡真実） 丸山義廣委員（代理/福島隆文）

福澤政徳委員（代理/黒河内淳史） 小沢雅和委員（代理/福島俊美） 唐木達也委員

高坂敏昭委員 [欠席：小澤文人委員 宮島和子委員]

《事務局》

久保友二幹事長 小木曾雅彦事務局長 佐々木保事務局員 河野通祥事務局員

V. 非公開の理由（会議を非公開とした場合）

（公開）

VI. 傍聴人の数

6人

VII. 協議事項（公開）

(1) 令和元年度（平成30年10月～令和元年9月）

地域公共交通確保維持改善事業の事業評価（案）について

(2) 運行改善策について

(3) 令和2年度事業計画（案）について

VIII. その他

(1) 令和元年度中間報告

・デマンドタクシー実証運行開始に向けた準備状況について

・乗り方教室、説明会等におけるバスの周知について

(2) 新井北部地籍運行ルートの変更を求める要望書について

(3) 大島区からの無料化を求める要望について

## IX. 会議資料の名称

- ・次第及びVII、VIIIに係る資料

## X. 審議の概要

### 1. 開会（水野副会長）

### 2. 会長挨拶（宮下町長）

### 3. 協議事項

#### (1) 令和元年度（平成30年10月～令和元年9月）

地域公共交通確保維持改善事業の事業評価（案）について

〈事務局より説明〉

※質疑・意見なし

【令和元年度（平成30年10月～令和元年9月）地域公共交通確保維持改善事業の事業評価（案）について承認】

#### (2) 運行改善策について

〈事務局より説明〉

委員：フリー降車が開始となるのはいつからか。

事務局：令和2年4月1日からを予定している。

【運行改善策について承認】

#### (3) 令和2年度事業計画（案）について

〈事務局より説明〉

会長：上片桐循環の運行ルートの変更については、後程議題で出てくるため、それ以外について採決を取らせていただく。

※質疑・意見なし

【令和2年事業計画（案）について承認】

### 4. その他

#### (1) 令和元年度中間報告

〈事務局より説明〉

※質疑・意見なし

#### (2) 新井北部地籍運行ルートの変更を求める要望について

〈事務局より説明〉

会長：先ほどの上片桐循環の運行ルートについて、ここで採決を取らせていただく。

※質疑・意見なし

【新井北部地籍運行ルートの変更について承認】

#### (3) 大島区からの無料化を求める要望について

〈事務局より説明〉

委員：大島区の方から、「通学定期券を無料にさせていただきたい。生田や上片桐は無料なのにこの地域は無料となっておらず、平等性に欠ける。」といった話を聞いた。要望の

内容を見ると確かにそう思えるが、何をもって平等となるのか私自身わからず困っている。町がどういう見解でこの要望に対しての回答を出したのかお伺いしたい。

委員：要望書（資料 P13）の 5 に合併の条件といったことが出ている。基本的に学校は子どもたちの通学の距離を考えながら造っているが、生田地区では昭和 40 年に中学校が、昭和 43 年に福与、部奈、塩倉の子どもたちが通っていた中部小学校が無くなっていく中で、学校が無くなった子どもたちへの合理的な配慮が求められた。その合理的配慮の一つとして、中央小学校、中学校に通うための足となるスクールバスの運行が始まったと聞いている。

地域にはそれぞれ特性がある。その特性を配慮しながら、なるべくそこに住んでいる人たちが暮らしやすいようにしていくのかを、公正という立場に立って合理的配慮をしていくことが大事だと思う。ただ、例えば生田や上片桐にも同じ金額を負担してもらうのは、平等という観点ではそうなるが、そうなってしまうと生田の子どもたちに対しての合理的な配慮というものがなくなってしまう。公正という観点で、何を加えてあげればその地域の子どもたちがよりよく生活ができるかということを大事にしたいと考えている。

委員：この問題はそれぞれの立場や住む場所によって、いろいろと考え方が違うと思う。この協議会で話し合っても同じことの繰り返しになるため、もう一度町の方で公平・平等ではなくそれぞれの立場の考え方を考慮に入れて検討していただきたい。

会長：今後も考えていかなければならない内容である。また、公正という立場だと、全小中学生を対象にしなくてはならず、現状の路線ではとても無理となるので、そこも含めて次回に向けて考えさせていただきたい。

事務局：本件については継続して検討を重ねていく。

## 5. 閉会（水野副会長）